

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	高知県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	吾北村立吾北中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	4	10
生徒数	24	23	27	1	75	

研究の概要

1. 研究主題

生徒が互いに協力し、主体的に学ぶ授業づくり - 基礎学力の定着と学力の向上 -
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>授業評価システムを構築し、全学年の全教科で、生徒からの授業評価をもとに分かる授業の創造に努めるとともに、主体的な学習を重点課題とした授業改善に努めた。</p> <p>選択教科の充実</p> <p>全学年・数学 積み上げの教科であり、理解の状況に差が出やすい教科であるため。</p> <p>全学年・英語 積み上げの教科であり、理解の状況に差が出やすい教科であるため。</p> <p>3年生・国語・社会・理科 理解が不十分な単元や領域の基礎学力を定着させるため。</p>
--

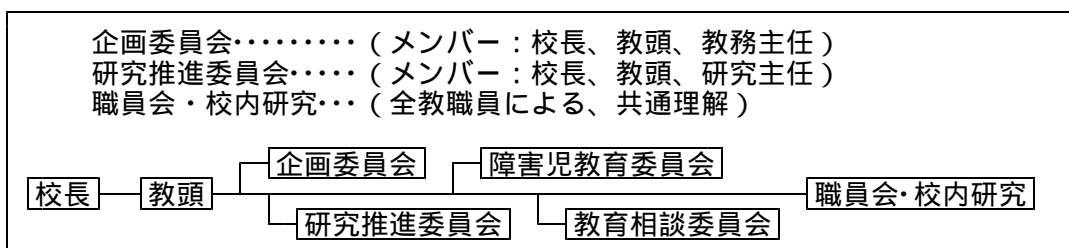
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 生徒が互いに協力し、主体的に学ぶ授業づくり(基礎学力の定着と学力の向上)</p> <p>研究の見通し(仮説) 生徒が、互いに教え合い学び合うことを通して、学習意欲が高まり、主体的に学ぶ態度が身に付くと考える。また、基礎学力の定着と学力の向上を図ることができる。</p> <p>研究内容・方法 生徒からの要望もあり、授業の中で班学習の時間を多くしているが、互いに教え合い学び合うことを通して学習意欲を高めることは大切であるが、教師一人一人が毎日の授業において、学ぶことの楽しさを体験させ、主体的に学ぶ態度を身に付けさせるよう実践しなければならない。</p> <p>そのために、授業評価システムを構築して、生徒からの授業評価表をもとに授業改善表を作成し、それをもとにした全教員による研究協議を通して、授業改善に努めてきた。</p> <p>選択教科でも班学習を取り入れているが、数学は全学年の各学級を3グループに分け、英語は1年は3グループ、2・3年は2グループに分けて、各グループに教員1名が指導にあたり、課題別学習や習熟度別学習に取り組んだ。</p>
--------	---

平成 15 年 度	<p>テーマ 生徒が互いに協力し、主体的に学ぶ授業づくり（基礎学力の定着と学力の向上）</p> <p>研究の見通し 生徒が、互いに教え合い学び合うことを通して、学習意欲が高まり、主体的な学習態度が身に付くと考える。</p> <p>研究内容・方法 平成14年度の取り組みを継続しているが、選択教科での少人数指導も継続して取り組んでいる。数学の1学年は、計算力コース、数量関係コース、図形コースの3グループに分け、2・3学年は、基礎コース、標準コースの2つのグループに分け、3人の教師で指導している。英語は全学年で、基礎コース、中級コース、上級コースの3つのグループに分け、3人の教師で指導している。</p> <p>家庭学習の習慣化と充実を図るために、平成14年度に「学習のしおり」（学習の手引き）を作成したが、その活用を図るために保護者の協力を得るように努めている。</p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 生徒が互いに協力し、主体的に学ぶ授業づくり（基礎学力の定着と学力の向上）</p> <p>研究の見通し 生徒が、互いに教え合い学び合うことを通して、学習意欲が高まり、主体的な学習態度が身に付くと考える。</p> <p>研究内容・方法 平成15年度の取り組みを継続するが、4月下旬に実施する観点別到達度把握学力検査の結果を分析し、その分析をもとにして、学級集団の特徴や状況に応じた指導や個々の生徒に応じた指導を行い、基礎学力の定着と学力の向上を図る。</p> <p>生徒にとって分かりやすい授業の創造のために授業改善に努めるが、基礎学力の定着には家庭での学習（予習、復習）が不可欠であるので、家庭学習の習慣化と充実に関心をもちたい。</p> <p>これからの社会を担う生徒が、主体的、創造的に生きていくための確かな学力を身に付けるための方策を模索し、その取り組みを進める。</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

基礎学力の定着度については、学年始めに実施する観点別到達度把握学力検査で検証しているが、平成15年度の取り組みの結果は6月に分かるため記載できない。

平成14年度の取り組みの成果は、

国語では、2年生全国平均よりも「書く能力」が3.0ポイント、「読む能力」が2.1ポイント、教科総合で0.9ポイント高く、1年次の結果よりも向上している。3年生は「読む能力」で0.2ポイント高くなっているが、その他は成果が見られない。

社会では、2年生が「資料の活用の技能・表現」で、1.7ポイント高くなっているが、その他は成果が見られない。3年生は、「日本と世界の国々」の領域で5.3ポイント高くなっているが、「社会事象への関心・意欲・態度」「資料活用の技能・表現」がわずかに向上したに留まっている。

数学では、2年生が「図形」の領域で2.5ポイント高くなっているが、「数学への関心・意欲・態度」「数学的な表現・処理能力」が昨年度よりも向上したに留まっている。3年生は2年次の結果が良かったこともあるが、「数学的な見方や考え方がわずかに向上したにすぎない。

理科では、2年生も3年生も昨年度より低い結果になっている。

英語では、2年生が「表現の能力」で2.8ポイント、「理解の能力」で1.6ポイント「言語や文化についての知識・理解」で、7.0ポイント高く、「教科総合」でも、3.8ポイント高く、高い成果を得た。3年生は「言語や文化についての知識・理解」が4.5ポイント高く、「理解の能力」「教科総合」は2年次よりも向上している。

2. 今後の課題

家庭学習がまだまだ不十分であり、保護者に協力をお願いしているが、予習や復習ができていない生徒が多く、基礎学力が定着しにくい。

基礎学力の定着に不安のある生徒や理解に時間のかかる生徒には個別指導が必要で、長期休業中や放課後、テスト発表期間中に指導しているが、現状以上の時間確保が難しい。

小中学校が連携して、学習意欲を高める取り組みを進めなければならない。

学力把握のための学校としての取組

4月下旬に実施している、観点別到達度把握学力検査の結果を分析し、全教員での考察や協議を通して把握するとともに、共通理解を図っている。また、その結果を個別指導に生かすようにしている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年2月13日(木) NHKの教育番組「教育フォーカス」で、本校の取り組みが紹介された。

平成15年6月19日(木) 中国・四国中学校長研究会愛媛大会の分科会で実践発表した。テーマを教職員の資質能力と向上と限定されていたので、基礎学力の定着と学力の向上を取り組みを通して教員の指導力を高めるとして、本校の実践を発表した。発表副資料に研究成果を載せている。

平成15年12月2日(火) 高知県新任教頭研修会の講師として、本校の研究実践を説明する中で、フロンティアスクールとしての研究実践も併せて説明し、その実績の一部を紹介した。

HP(ホームページ)は、本年度作成したが、まだ、十分なものにはなっていない。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無